

おはようございます。

このグラウンドに立つと、私たちは今、桜の花に包まれています。春爛漫の中で、新年度を迎えることになりました。やはり、春の来ない冬はありません。

ただ、残念ながら、緊急事態宣言が出され、臨時休業はおよそ1ヶ月続くことになってしまいました。詳細はこのあとホームルームでお知らせします。

本日の始業式は、緊急事態宣言が出された情勢、即ち生命や生活の危機に瀕している人もいらっしゃる中、式典はふさわしくないとの判断で、全県立学校そろって年度当初の説明会として実施しています。

今日は2つ話をします。

1つ目は、新型コロナウイルスに関する話です。

非常事態宣言が出された国内では、感染者数は4千人を超えています。世界全体の感染者数は約140万人、死者数は約8万人となっています。感染拡大期に入ったときの爆発力は、欧米の様子を見ているとすさまじい限りです。また、約40億人の人々、即ち世界人口の半数を超える人々が外出制限を受けています。

そして、このウイルスに打ち勝つための、治療薬もワクチンも、まだ開発されていません。臨時休業延長やむなしです。

では、私たちは今何をすべきなのか。治療薬が開発されるまでの間に、私たちができることは、ウイルス感染の拡大の速度を落とすという、時間稼ぎです。

神戸高校では、皆さんを神戸高校に迎え入れるために、先生方はこんな取組をすることにしました。当番の先生が、皆さんが校舎を出た後、教室やトイレのドアの取っ手や電気のスイッチ、階段の手すり、などを消毒して回ることにしたのです。

皆さんは、何をしなければならないか。それは、3つの密「密閉、密集、密接」を、とにかく避けることです。十分に換気を行ない、人とは一定の距離をとり、わいわいと声を上げない。そして、マスクを着用し、丁寧に頻繁に手を洗いましょう。

だから、この会でもこのような間隔をとって並び、とても寂しいことですが、大好きな校歌も歌わないこととしたのです。

そして、これは、登校していない日でも注意しなければならないことです。すべての人が実行しなければ、コロナ感染拡大をくい止めることはできません。

2つ目の話は新年度を迎えるに当たっての話です。

俳人、高浜虚子の有名な句を紹介します。

春風や（しゅんぷうや）闘志いだきて丘に立つ

もしくは

春風や（はるかぜや）闘志いだきて丘に立つ

どう読むかは諸説ありますが、僕は、決意や覚悟が感じられる  
春風や（しゅんぷうや）闘志いだきて丘に立つ  
と読むのが好きです。

私たちを取り巻く環境はかなり困難な状況です。しかし、それに負けてなんかられない。  
私たちは、前を見据えて、今こそ闘志をみなぎらせることが必要です。

昨年度末の終業式に言ったことを繰り返します。

「人事を尽くして天命を待つ」

制約はいろいろあるけれども、今与えられた環境の中で、しっかりと、人事を尽くしましょ  
う。神高生には底力があります。限られた時間であっても、その時間を精一杯活用できる集中  
力があります。自己実現を目指す志があります。そして、そのために努力し続けられる根性が  
あります。

春の来ない冬はありません。

この一年、皆さん一人ひとりが、闘志を持って、神高生の底力を発揮してくれること  
を願って、新年度の挨拶とします。